

idea

ニュースレター「アイデア」

2023.1

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | 一関学院高等学校 通信制課程 教頭 橋野 智弘さん(後編)
- 3 | 団体紹介 | NPO法人北上川サポート協会
- 5 | 地域紹介 | 前畑自治会(大東)
- 7 | 企業紹介 | 有限会社マルエ(東山)
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 地域運営の落とし穴⑩ まやかしの「課題解決」
- 9 | センターの自由研究 | 仕事の流儀ファイルNo.4「炭焼き①」

今月の表紙

「立込」と呼ばれる作業途中の炭窯。メインの炭材の手前には柴(小木の枝葉や小さな雑木の総称。シバキとも言う)が入られ、火がつけられます。この炭窯は約20年前から使用しているもので、約300本の炭材が入り、牛の飼料袋10袋分の炭ができるのだとか。今月は、かつては各地に存在していた炭焼き職人たちの技に想いを馳せます。(自由研究)

idea

発行 いちのせき市民活動センター
せんまやサテライト 〒021-0881 一関市大町4-29 のはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415
〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736

ホームページ: <https://www.center-i.org/> メール: center-i@tempo.onn.ne.jp

お知らせ

募集

「すもも会」 会員募集

モダンダンスの好きな仲間が集まり活動している「すもも会」では、一緒に活動する仲間を募集しています(年齢制限なし。市外の方も参加可)。
モダンダンスは、柔軟性をつけ、ケガをしにくい体づくり、リズム感や体幹を鍛え、運動の基礎を身に付けることができます。また、音楽に合わせてストレッチやバレレッスンをして身体を整える「大人のストレッチクラス」も開講中。詳しくは下記までお問合せください。
日時:毎週日曜日14時～(モダンダンス、ストレッチクラスともに)
場所:一関市真柴市民センター
※日時・場所は変更になる場合あり
会費:月謝有り
問合せ:090-7936-6676(佐藤)

募集

一関藤沢市民劇場 キャスト・スタッフ募集

「一関藤沢市民劇場実行委員会」では、令和5年2月26日(日)に公演予定の「一関藤沢市民劇場」のキャストとスタッフを募集しています。「演じてみたい」「物を組み立てることや絵を描くことが好き」「音響や照明に興味がある」など、初めての方でも大歓迎です。詳しくは下記まで。
募集内容:
<キャスト> 小学生以上(定員制限なし)
<スタッフ> 音響班・照明班・化粧班・衣装班・美術班 等
※各班高校生以上(若干名)
問合せ&申込:0191-63-5516
(一関市藤沢文化センター内
一関藤沢市民劇場実行委員会事務局)

情報

花の駅せんまや 「ドッグラン広場」

千厩町清田の簡易パーキング「花の駅せんまや」では、飼い犬をノーリードで遊ばせることができる「ドッグラン広場(無料)」を設置しています。
広場の利用は日の出から日没まで、ごみの持ち帰り、犬同士の喧嘩や脱走防止のために飼い主が目を離さないなどのマナーを守れば、誰でも自由に利用可能(ただし自己責任)です。詳しくは下記までお問合せください。
場所:「花の駅せんまや」敷地内
(一関市千厩町清田字境)
※50m×25m四方
料金:無料
問合せ:090-3758-0469
(清田親交会事務局・千葉)

情報

NPO法人北上川サポート協会 LINE公式アカウント開設

本誌「団体紹介」にてご紹介した「NPO法人北上川サポート協会」では、LINE公式アカウントを開設しました。
同協会の最新情報(イベントなど)をいち早くお届けするほか、イベントへの参加申込もスムーズに行うことができます。
下記QRコードを読み込むことで、お友達登録(無料)ができます。同協会のホームページからもアクセス可能です。
問合せ:0191-36-5666
(川崎防災センター内
NPO法人北上川サポート協会)



情報

NPO法人奏楽(そら)のたね 設立のお知らせ

令和4年11月15日、「NPO法人奏楽(そら)のたね」が一関市から認証を受けました。
同法人は、医療的ケアが必要な重症心身障がい児・者と、その家族等への理解促進や支援活動を目的に設立。今後は新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、主に「重度訪問介護事業」を行う予定です。詳しくは下記までお問合せください。
法人名:NPO法人奏楽(そら)のたね
設立認証日:令和4年11月15日
事務所:一関市赤荻字月町35-1
問合せ:090-6851-3109
(代表理事・伊藤和美)

講座

月曜からNPO ～もしもあなたが NPO法人をつくったら～

NPO法人を例に、実際の提出書類等を作成しながら団体設立に係るノウハウを学ぶ計3回の上記タイトルの連続講座を開催します。講座終了後、本講座内で模擬的に作成した設立趣旨書と定款を用い、個別相談にて具体的な設立準備のサポートも可能です。詳しくは下記まで。
日時:2023年1月23日、2月20日、3月20日
※各回月曜19時～20時30分開催
場所:のはなプラザ 4階共同会議室
参加料:2,000円(全3回分)
申込締切:2023年1月20日(金)
問合せ:0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター)

まちの写真展

スタッフがまちの1コマを切り取ります。



旧町村別の人口動態等を共有します。

作品名 「千松タコアシワニ」



一関市藤沢文化センターに展示されている「藤沢野焼祭2022」の作品たち。最も大きいのは一関市長賞を受賞した千松自治会の作品。3年前に失敗した大型作品のリベンジでもあり、9日間もかけて形成したのだとか!令和5年8月頃まで展示しています。

2022年12月1日付
(2022年11月30日現在
住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

| 一関市全体 | 前月比 |
|-------|-------------|
| 人口 | 109898 -121 |
| 世帯数 | 46424 -7 |
| 出生数 | 38 11 |

| | 人口 | 前月比 | 世帯数 | 前月比 |
|----|-------|-----|-------|-----|
| 一関 | 54757 | -62 | 24542 | -9 |
| 花泉 | 12179 | -7 | 4706 | 0 |
| 川崎 | 3291 | -3 | 1287 | 2 |
| 千厩 | 9950 | -15 | 4106 | -7 |
| 大東 | 12118 | -21 | 4922 | -11 |
| 東山 | 5937 | -2 | 2280 | 2 |
| 室根 | 4447 | 2 | 1779 | 12 |
| 藤沢 | 7219 | -13 | 2802 | 4 |

167 / 109,898

橋野 智弘

一関学院高等学校(学校法人一関学院)通信制課程教頭。平成2年に同校全日制課程の教師として着任(当時は一関商工高等学校)。平成15年の通信制課程の立ち上げに関わり、以後、通信制課程の主任教諭として従事。令和4年度より同課程教頭へ。現在も教壇に立ち続けている。京都府出身、一関市在住。



通信制課程の校舎外観

第102回 一関学院高等学校 通信制課程 教頭 橋野 智弘さん × いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹

「単位制通信制高校」という「受け皿」 ～社会とつながり続けるために【後編】～

文科省によると、高等学校への進学率は98・8%(令和2年)。そのうち2・4%が定時制、6・3%が通信制課程となっており、通信制課程の生徒数は増減はありつつも全体としては右肩上がりです。また、単位制の高等学校も増え続け、全国では1250校以上に。当市において単位制の通信制課程を展開する一関学院高等学校(以下、学院)に、そのニーズと現状を伺いました。(2回シリーズの後編)

小野寺 学院さんの通信制課程は、社会からこぼれ落ちていく子たちを食い止めていくような存在だと感じますが、実際にはどんな生徒たちが在籍しているのでしょうか？

橋野 様々ありますが、最近増えているのは、中学校までも含めて、普通に全日制に通っていた生徒が、SNSなど、ちょっとした人間関係の行き違いなどで登校できなくなり、転校してくるケースです。そういう子の場合、環境が変わることで、普通に卒業し、就職できています。

小野寺 確かに、大人の世界でも、職場が合わないと感じれば転職するわけですから、高校も同様の考え方ですね。

橋野 友達関係で行けなくなっただという子は、わりとすぐにリセットして、元気にアルバイトに行ったりしていますよ。

小野寺 必要な授業にだけ出て

アルバイトをするとなると、本当に大学生のようですね(笑)

橋野 全日制の場合、家庭の事情などが無い限り原則アルバイトは禁止ですが、通信制の場合はむしろアルバイトを勧めています。アルバイトで大人社会に慣れているせいか、就職試験の面接も反応がよく、全日制の子が落ちて通信制の子が採用されたという例も少なくないです。

小野寺 名門大学を出ている子よりも、そうやってアルバイトなどで社会経験を積んだ子の方が応用力があつて、即戦力になりますよね。

橋野 ここに来た時は、精神的にガクツとなつている子が多いんです。全日制に行けていた子などは「どうしてこうなつてしまったんだ」と自信をなくしていても、ここに来れば同じような境遇の子がいるので、「こういうのもありなんだ」と気づいて、元気になるんです。

小野寺 ちなみに通信制に通う生徒の数は10年前と今では変わっているんでしょうか？

橋野 通信制の生徒はほとんど同じくらいです。ただし、子どもの数が減少している中ですから、比率は増えていることになりました。今は、全日制が354人で、通信制は122人です。

小野寺 割合が多いように感じますね。今後、全日制と通信制の生徒数が逆転してしまうような可能性はありますか？

橋野 考えられなくはないですが、私個人としては、全日制に行けるのであれば全日制に行った方がよいと思うんです。人との関わりの中で、合う人もいれば、合わない人もいます。それが当たり前で、学校は社会の縮図のようなものじゃないですか。

小野寺 友達関係とか、集団生活というのがある程度経験しておかないと、大人になつてから困りますからね。選択肢の一つとして通信制が普通になりつつある中で、「自分の時間を自由に使いたいから」という理由で

通信制を選ぶ子が増えなければ良いなと思います。

橋野 はい。あくまでも通信制は補助的なものというか。地域として、社会とのつながりから脱線してしまいうな子を受け止めてあげるためであつて……

小野寺 地域としては、そういう子たちも地域社会の一員であり、存在してるんだよということとを認めてあげなきゃいけないし、受け入れて、支えて、時には背中を押してあげるといふ状況を作つていかないとけないと思うんです。いじめ、引きこもり、不登校……、そういう言葉に当てはめて判断してしまいがちですが、もっと様々な背景があるはずなんですよね。

橋野 単に子どもたち自身の問題だけでないことも多いです。家庭環境だったり、自分の拠り所のようなところが無いと感じてしまつたり。学校が社会の縮図と言いましたが、通信制はさらなる社会の縮図です。

小野寺 そういう縮図のようなものが、ここに集中しないよう

に、地域社会がもう少し関心と責任をもつていかなければいけないですね。近年、「夜間中学^{※1}」がピックアップされていますが、どちらかというと、「学び直し」という意味合いなので、混同は避けたいです。

橋野 当校が担う目標の一つに「本来全日制に行ける子たちのバックアップ」があり、軌道修正をしてあげる、ということがあります。高校を卒業させ、次につなげる。ただ卒業するといふ形ではなく、何かしらにいい状態を卒業させることを意識しています。就職や進学が難しいければ、「地域若者サポートステーション^{※2}」につないで卒業させるとか。

小野寺 通信制高校は様々ある中で、そこまで意識してくれる高校が地元にあるというのは本当に宝だと思います。一関市民は誇りにもつべきです。

橋野 そういう点でいけば、中学校からの不登校や、友達関係で不登校になつてしまつたという場合には、当校の全日制に進学すると良いと思います。自信

はないけれど全日制に挑戦してみたいという時に、他校の全日制に行つてダメだった場合、当校の通信制に入るには「転校」になります。当校の全日制からであれば「転籍」であり、学校は変わりません。また、全日制とは連携しているので、欠席が続くなど「やっぱり厳しいかな」というタイミングでフォローを入れ、留年状態になる前に転籍をサポートします。

小野寺 そういう情報を中学校の先生たちもしっかり把握し、適切に進路指導して欲しいものですし、親世代のマインドリセットも必要ですね。

橋野 通信制を滑り止めの意味合いで捉えるのではなく、「自分のペースでやっていく」ための学校だとポジティブに捉えていただければ。入ったら、出口までサポートします。

小野寺 厚労省では「切れ目のない支援」を謳っていますし、まさにそれを実現されている。「単位制通信制高校」へのリテラシーを高めていきたいです。

※1 「中学校夜間学級」のことで、市町村や都道府県が設置する中学校において、夜の時間帯等に授業が行われる公立中学校。義務教育を修了しないまま学齢期を超過した方や、様々な事情(不登校等)により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した方、外国籍の方などの、義務教育を受ける機会を実質的に保障するための様々な役割が期待されている。

※2 厚生労働省委託の支援機関で、県内では盛岡市、宮古市、一関市(「いちのせき若者サポートステーション」として一関市大町「なのはなプラザ」4階に開設)に設置。働くことに悩みを抱えている15歳～49歳までの方の就労を支援する。

団体紹介

NPO法人北上川サポート協会

平成16年3月設立。「北上川の河川空間を利用するすべての住民に対し、河川空間の積極的な活用と創造に関する事業を行い、流域の交流と連携及び地域の活性化に寄与する」ことを目的に活動する。会員数44名(令和4年度現在)。

TEL: 0191-36-5666 FAX: 0191-36-5667
E-mail: kitakamigawa284@gmail.com
住所: 岩手県一関市川崎町薄衣字如来地100番地1 (川崎防災センター内)



写真: 令和3年度「SUPモニター体験」の様子

原点は「Eポート大会」

北上川、砂鉄川、千厩川の3つの河川が合流する旧川崎村は、舟運で栄え、舟や人の往来で賑やかだった一方、度重なる水害により町場の移転も経験するなど、川とともに歴史を刻んできました。

築堤などの治水事業により、水害に悩まされることは減った一方、川との距離が物理的にも精神的にも広がっていき、いつしか「川は怖いもの」というイメージが……。

「川は私たちの生活の命の源でもあり大切にかけがえのないもの」という認識を改めて住民が持ち、「川に親しむ人たち」を増やしていくことを目指し、「河川空間の積極的な活用と創造に関する事業」を行っているのがNPO法人北上川サポート協会です。

その前身と言えるのが「Eポートスタッフ協議会」。旧川崎村では平成7年に「川と共に生きるかわさき」というスローガンを掲げ、「北上川流域交流Eポート大会(以

命の源・川に親しみ、川で交わる

下、Eポート大会[※]を実施してきました。大会は各種団体で構成する実行委員会形式で運営されますが、その実動を担っていたのが有志たちの集まり「Eポートスタッフ協議会」です。

その中のメンバーや、川や自然が好きな人、川に限らず地域づくり活動やボランティア活動に携わりたいという人など、様々な人が集まり、平成12年、「北上川サポート協会」を結成(任意団体)。

川に関する事業を純粹に楽しんでいましたが、活動を広げる転機が訪れます。平成16年、旧川崎村と国土交通省により、船着き場と直結する「川崎防災センター」が整備され、北上川の巡視や河川の環境調査など、陸地からでは確認できない場所の点検を行う「河川調査船(以下、ゆはず)」も配備されることに。これらの管理・活用を担う団体として、白羽の矢が立ったのです。

活動・事業規模が急拡大することを踏まえ、法人化を決意した同会は、「川好きの住民有志の集ま

者があったことから、「地域における存在意義を再確認する場となりとても良い事業でした」と笑顔を見せます。

「川崎II Eポート」から「EポートIII川崎」へ

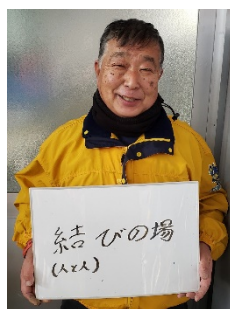
令和5年で29年目を迎える「Eポート大会」は、川崎地域や一関市内のみならず全国から参加団体が集まり、百チーム以上が出場した年も。川崎中学校の生徒も運営に携わるので、水害の歴史やEポート大会の開催意義などをしっかり共有し、川崎地域における北上川とのつながりを伝えてきました。

間もなく第30回を迎えるにあたり、会員の高齢化なども踏まえ、「どうしたら継続していけるか」という話し合いの機会を持つことに。その結果として気づいたのが「大会のために桟橋を組むなど、全国に複数あるEポート大会の中で、川崎のEポート大会が一番手が込んでいる」など、自分たちの大会の価値・誇りと言えることでした。

今後の継続においては、当初から変わらぬ「楽しく、無理なくできる」とこにこだわり続けること、そして「いいポートだった」と参加者に言ってもらえるような大会運営をしていくということを確認し合えた同会メンバーた

Q.あなたにとって北上川と同会の存在とは？

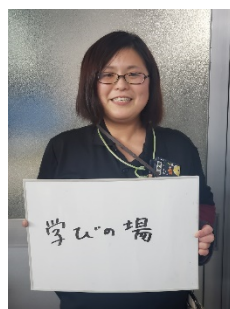
理事



A. 結び(人と人)の場

こんの かずのり
金野和則さん
「Eポートスタッフ協議会」からのメンバーであり、第1回目のEポート大会からの全てを知る「川のなんでも屋」のような存在です。

事務局



A. 学びの場

すがわら さちこ
菅原幸子さん
高校生の頃からEポート大会にボランティアで参加していたことが縁で、法人化とともに事務局として就職。多岐にわたる業務をこなします。

ち。その四季折々で違う表情を見せる河川と同じように、同会も、その時々の変化に向き合いながら、「川に親しむ人たち」のオールを漕ぎ続けます。

※10人乗りの手漕ぎカヌー型のEポート。
[E] TEExchange / Environment / Eco-Life / Everybody / Easy / Enjoy / Expertise / Education / Emergency 等の意味を持つ。

- Photo gallery -



川遊び教室@砂鉄川
自然学習活動で行う川遊び教室。水生生物を探したり、水遊びをしたり、「流れ方」を学んでみたい。写真は令和3年度。



水生生物調査

川崎小学校4年生の総合学習として、毎年加妻川での水生生物調査を行っています。石の下などの小さな生物もチェック!



白熱のEポート大会

毎年9月に開催。小学5年生以上の10人1組で参加可能。2回のタイムトライアルを経て、上位5チームが決勝レースへ!



北上川クリーン大作戦
第37回目の令和4年度は「いわて海ごみなくし隊」隊長のアンダーエイジさんも参加!川(船上)からもゴミを拾います。

農林畜産振興から 集落の自治機能まで

前畑自治会(興田)

行政区は「前畑」。30戸104人(6班体制)が暮らす(20歳以上が自治会の構成員)。自治会の副会長は区長が兼務し、集落内の各種団体長と4部会(納税・環境衛生・自主防災・体育文化)の部会長が自治会の運営委員となる。部会と横並びで前畑農家組合がある。



左の写真：自治会住民で組織する多面的機能支払活動組織での農道草刈り終了後集合写真(令和4年9月)

前畑集落は、一関市興田市民センターから3kmほど北西に向かった場所に位置する中山間地域で、かつては果樹と酪農が盛んでした。平成20年には「恋ふじ」というリンゴの新品種を自治会住民が商標登録し、今も栽培を続けています。平成元年、当時の大東町が自治会の組織づくりや運営の強化対策(国の「ふるさと創生事業」の一環)を打ち出したことを受け、平成4年、前畑集落内に「前畑振興組合(老人クラブ・婦人会・農家組合・行政区長・納税組合・前畑農業振興組合・同志会の各代表で組織)」が発足。

前畑集落民の交流促進及び研修等のための多目的集会所として「前畑コミュニティセンター(以下、自治会館)」を新設し、地域農林畜産の振興に寄与することを目的に組織された同会では、自治会館を活用した集落内の農林畜産振興策等の検討が進められました。

前畑自治会

大東

持続可能な自治会を目指し 認可地縁団体へ

平成5年、自治会館が完成し、目的が一つ達成されたことを受け、組織の在り方などを再検討することになり。平成9年、納税組合を部会として吸収し、「前畑自治会」へと改組。農家組合は部会と横並びの組織となり、婦人会は解散、その他の団体は独立組織のまま存続させました。

「小さな集落ですが、目的がそれぞれ異なる複数の団体が存在しているため、少しでも住民の負担を軽減すべく自治会設立当初から合同総会としています。自治会は各種団体の連絡調整的な役割も担っていますからね」と語るのは、自治会長の千田清記さんです。長きに渡り事務局も務めていた千田さんは、「自治会館ができたことは集落の最大の出来事だった」とその歴史を振り返ります。

自治会館建設翌年(平成6年)からは、自治会館を会場に「部落祭

(盆踊り大会)を実施。自治会に改組してからは体育文化部が中心となり、8月に企画運営してきましたが、平成16年からは、「さなぶり」を兼ねて6月に変更しました。「春祭り(通称)」として行いますが、自治会運動会や自主防災部企画(避難訓練と消防署からの指導)も同日開催にしており、交流を深めつつ、防災への意識向上にもつながります。コロナ禍で春祭りは中止が続いていますが、「いつでも再開ができるように予算は毎年組んでおり準備は万端です！」と事務局の武田祐一さん。

「やるとなったら、とてもまとまりのある集落です」と千田さんも続けます。まとまりの良さが活かされ、平成20年10月、自治会館が建つ土地を自治会として所有すべく、「認可地縁団体」の認可にこぎつけました。同自治会についての誇りの一つです。

毎月第4日曜日は 自治会館へ

昭和40年代、集落を離れた若者が地元に戻って来た時につぶやく「ここには何も楽しみがない」という声。そうした声をきっかけに、地元の若者らで立ち上げたのが「同志会」です。立ち上げ当初の名称や正確な立ち上げ年度

は不明ですが、現在の区長や自治会長は親世代が立ち上げたときとされ、現在も続いています。

「その頃は娯楽が少なく、せっかくなので帰省した若者も集う機会がありませんでした。そこで、地元にいる若者がお盆期間中の飲み会(前述の盆踊り大会の前身となるイベント)の企画や、秋には豊年祭(芝居屋を集落に呼んだ)を企画し集落を盛り上げたものです」と語るのは、区長兼自治会副会長の武田誠さん。その盛り上げは、都会に行った若者の呼び水ともなり、Uターンも多くなったのだとか。「自治会館ができてからは『毎月第4日曜日は同志会の集い』と設定し、定例の交流を行ってきました。現在では自治会役員やその他集落内の団体役員等の多くが同志会メンバーなので、その日を集落内各種団体の連絡調整会議日としても位置付けています」と続けます。

また、近年は夕方からの同志会の集いに合わせ、午前中から何かしらの自治会事業(環境整備作業等)を組み合わせています。「参加する負担が軽減され、情報も共有できるので一石二鳥です」と、微笑む千田さんが「さ、そろそろ同志会の時間です」と案内してくれたのは自治会館前の東屋。「暖かい時期はあの東屋でバーベキューをし

Q.集落の自慢は何ですか？

自治会長

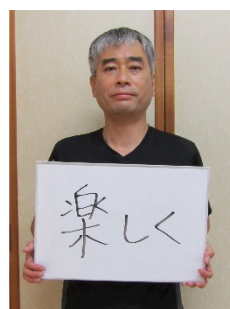


A.和

ちだ せいき
千田清記さん

5期9年目。平成5年から19年間事務局として尽力した後、自治会長へ。「先代が築き上げた集落の和を今後も大切に引き継いでいきたい」と語ります。

事務局(会計・書記)



A.楽しく

たけだ ゆういち
武田祐一さん

5期9年目。コロナ禍で様々な事業が中止となったものの、来年には「春祭り」の復活を期待。自治会の活動は「みんなが楽しく」がモットーです。

す。この集いをこれからも続けることができるように、我々は次の世代と良く交流しながらバトンタッチしていきたいですね」と、「同志」たちとの交流を楽しみながら、今後の自治会運営への抱負を語ってくれました。

- Photo



住民間で継承されてきた「権現舞」。南部大権現」とともに舞で使用する道具は座元と呼ばれる宿(民家)で保管します。

神友(しんゆう)会



農業振興組合の役割

近隣集落も含めて穀物が集まる農繁期。乾燥調整は他者の穀物と混合することがないように、1軒ずつ作業しています。

gallery -



集落の農業を共同化

昭和60年に設立した「農業振興組合」は、後継者問題を解決すべく、大東町内でもいち早く集落の農業を共同化しました。



念願だった集落の拠点。自治会のみならず、各種団体の活動拠点。毎月第4日曜日は「行けば何かある日」。写真は令和4年の同志会BBQの様子。

東山 有限会社マルエ

「マルエスーパー柴宿店」を展開する「有限会社マルエ(丸江スーパー)を展開する「(株)丸江」とは別会社)は今年で創業50年。大東町大原でガソリンスタンドや食堂などを経営していた現代表の義父が、昭和47年に大東町大原と興田に「マルエスーパー」を創業し、昭和58年に3店舗目として柴宿店がオープン(大東町内の店舗は閉店し、現在は柴宿店のみ営業)。新鮮な魚介類や野菜等の仕入れ、お昼頃から夕方にかけては店内で調理した惣菜等の販売を行い、「新鮮なものを新鮮なうちに」提供することを心がけています。手作りの仕出し弁当のほか、近年では、東山町と大東町内の高齢者施設に食品等を納める業務も担っており、地域の「御用聞き」としての機能も果たしています。

地域に「寄り添う」スーパーマーケット

昭和43年から住宅団地として開発され、区画整備が進められた東山町柴宿。開発と合わせて、団地内にはスーパーも創業しましたが、諸事情で閉店せざるを得ない状況に……。そこで白羽の矢が立ったのが、隣町(大東町)でスーパーを2店舗経営していた現代表(2代目)・熊谷和範さんの義父です。昭和58年「柴宿店もお願いできないだろうか？」と声をかけられ、既存店舗を買い取る形で3店舗目となる「マルエスーパー柴宿店」を開店したのです。

「義父はもともと商売上手で人望も厚く、協力してほしいと言われると、できないとは言わず、『どうしたらできるか』『どうすればより良くなるか』そんな風に考える人でした」と、熊谷さんは振り返ります。

宮城県で卸売りの営業職をしていた熊谷さんが婿養子として迎え入れられたのは35年前。同店含む旧東磐井郡内のスーパーに営業に来る中で、初代の三女に見初められ、営業職から一転、経営側となったのです。

魚の裁き方や「養殖よりも天然物を、冷凍よりも生ものを、陸送ではなく揚がりのものを」という仕入れ

創業から変わらず新鮮なものをお届け

のモットーを義父から学んだという熊谷さん。現在もその学びを活かし、朝一で気仙沼市から新鮮な魚を、市内からは採れたて野菜を仕入れ、鮮度重視にこだわり続けています。

「お互い様」の気持ちで

団地内では住民の高齢化が進み、そうした状況は同店付近の住宅地にも。そこで同店では、昔からの顧客の昼食となるような惣菜(サンマの煮つけや鶏肉の煮物など、店内仕込みのもの)や刺身などの提供に力を入れています。「馴染みのお客様が多いので、元気がないことに気づくこともありません。そんな時は少しでも心配の種が和らぐように、ゆつくり話をします。話だけして買い物はしないという時もあります。『来て良かった』という場でもありたいわけです」と熊谷さんは笑顔を見せます。

平成9年からは、東山町と大東町



- 1 新婚3か月目にはカツオ漁船に乗り込み、船員のご飯作りをしたという現代表の熊谷和範さん。
- 2 同店自慢の鮮魚売り場。
- 3 名物の焼き鳥は土日限定で、午後3時から、全品100円(税抜)です!

DATA
〒029-0302
一関市東山町長坂字柴宿7-85
TEL&FAX 0191-47-4311

内計4か所の高齢者施設に食品等を納品する業務も担うようになりました。「鮮度にこだわった店舗運営はもちろんです。これからは地域の方々にますます寄り添った形で『必要なところに必要なもの』をお届けお手伝いできれば」と続けます。

また、同店(社)とは別に、5年前から居酒屋も経営(店主は妻の牧子さん)。「地元のスナックが閉店するとなり、声をかけられまして。少しでも地域の潤いを絶やさないと、居酒屋として存続させることにしました」と開店までの経緯を振り返ります。

「地域のみなさんに支えられ、色々な情報をいただきながら経営ができています」と、感謝の気持ちを忘れない熊谷さんですが、目下の課題は後継者がいないこと。これからますます需要が増えてくるであろう「御用聞き」の存在を担い続けるために、団地の老舗スーパーは、「できること」を考え続けます。

今月のテーマ

地域運営の落とし穴③

まやかしの「課題解決」



必要なのは「寄り添い」と「処方箋」

少子化、高齢化、人口減少により、これまで自治会や集落などの地縁組織が担ってきた「地域生活」を送るための機能や仕組みに支障が出始めています。そうした現状に対し、「地方創生」の動きも受けて、従来の自治会や集落の機能を補完する「地域運営組織」の設立が進められ、これら組織が機能していくために、「中間支援」の役割発揮も期待されるようになってきています(前号参照)。

ここで注意して欲しいのが、「課題解決」という言葉です。「地域のいまを見れば、課題だらけである」とよく聞くものの、「課題解決」という言葉を使う人ほど何も解決していません。まさに落とし穴。自慢じゃないですが、当センターは、「課題解決」という言葉は使いません。

「課題解決」への特効薬がある訳がないことは周知の事実。特効薬がない中でなすべきことは「**どんな状況が、何を引き起こしているか**」を分析することであり、それに対して「**処方**」してあげることが支援者の役割だと当センターは考えています。決して「お薬」を出してあげることではないと思うのです。

「課題解決」という言葉を使う人が素晴らしく見えてしまうのは仕方のないことですし、誰かを頼りたい(すがりたい)気持ちはよくわかります。しかし、他力本願的になってしまったり、支援者がいなくなった途端に持続性・継続性がなくなってしまう。大事なのは**自治力の向上**であり、そのためには、「やってあげる」ことではなく、**共に考え、道筋を整理し、やろうという気持ち・モチベーションを高めていく**ことが大事で、**支援者は、その期待に応えるために「寄り添う」**のです。

人口減少が進むにつれて、既存のセクターではできないことが増えていきます。「中間支援役や「〇〇コーディネーター」の存在が必要」という動きがますます増えていくでしょうが、本コラム第27話でも触れたように、「配置する」ことが目的ではなく、「機能する」こと、そして、「機能し続ける」ことが大事です。

「中間支援」の立ち位置と評価

ところで、そもそも「中間」とは、どこの中間にいるのでしょうか?福祉分野や農業分野、環境分野など、様々な分野で「中間支援」という言葉を見かけますが、これを最近では、「分野別中間支援」という呼び方をすることがあります。分野別の「中間支援」までもが台頭し始めた背景としては、ニーズの多様化に伴い、それぞれの分野で「プレーヤー(ここでは「仕掛け人」のような意味合い)」が登場するようになり、各分野における事業の幅や種類も増加。しかし、それぞれの動きになってしまうことが多いため、各プレーヤーたちが膝を交え、「協働」により成果を高めていくことが必要であり、そのために「中間で支援する存在」が必要だ……という構図なのでしょう。

「分野別中間支援」であれど、当該分野内にとどまってしまうのは、縦割りでしかありません。中間に位置する者は、**他分野との連携も意識し、つなぎながら成果を引き出すように心がけることが必要**です。いずれにしても上述(前段)のように、中間に位置する者の「意識(お薬<処方)」が大事です。

そして「中間支援」が必要」と言いつつ、落とし穴となっているのは「その価値を評価する仕組み」が構築されていないこと。「中間支援」を生業としていくとして、支援先であるNPOや地域からの対価で安定した運営ができるかという現実的ではないため、行政からの受託事業が安定的な収入源にならざるを得ません。しかし、受託事業費が中間支援活動に対するニーズの高まりやスキルの向上に合わせて上がっていくという好循環がなければ、支援の質が下がってしまうことも。その結果、適切な評価につながらず、受託事業費が下がる……という悪循環に陥ることになってしまうのは、必要性和実用性に違和感が出てしまいます。

「中間支援」は明確な定義づけがされていないがために、「中間支援をしています」と言えば、「中間支援(役/組織)」であるということに。そのうえ、「中間支援」のように、カタチのない商品は金額換算が難しいことは確か。ゆえに、**必要性はありながら、それを担う組織や人材が成長していかない**のです。

さてみなさん、「課題解決」と言わないことがモットーの当センター(=中間支援組織)の価値はいかほどでしょうか(笑)

川崎地域における中間支援組織と言っても過言ではないNPO法人北上川サポート協会(本誌団体紹介に登場)が、毎年度しっかりと報告書を作成したり、自己評価・外部評価ができる仕組みを作っています。

「製炭」の流れに密着してみた

「製炭(炭焼き)」と一口に言っても、その手法等は様々あり、年代によっても異なります。また、目的も「工業(たたら製鉄含め)用の炭焼き」「現金収入を得るための炭焼き」「家庭のエネルギー源としての炭焼き」というように分けられます。今回は「現金収入を得るための炭焼き」を「専門」「農家の副業」の2つにわけ、それぞれにおける流れや技を整理してみました!

実際の流れを体験すべく、大東町で今現在も炭焼きを行う佐々木さんの作業に密着させていただきました。佐々木さんは家庭用のほか、地元の団体が小学生とともに毎年行っている「たたら製鉄」の体験で使用するための黒炭も製造。

また、東山町でかつて炭焼きを生業としていた岩淵松雄さん(82歳)など、市内外の様々な方にヒアリングを行いました!



窯の所有者 佐々木英一さん

共同利用者 佐々木秀敏さん

佐々木さんの炭炭

1回の炭焼きの流れ

1回の炭焼き(窯の稼働)には約7日間かかるほか、その前後にも各種作業が。専門/副業で異なる部分もありますが、大まかな1回の流れが以下。この作業を繰り返します。



ナラ・クヌギ等の雑木を伐採し、2尺4寸程度に切る(小切)。炭窯付近まで集材後、直径10cm程度になるよう割る(小割)。

炭窯に原木を入れ(立込)、火をつける。初日は3~5時間おきに薪(柴木)を継ぎ足し、温度調整。3~4日焚き続ける(温度管理)。

黒炭の場合、火を止めてから3~7日は窯を放置し、自然冷却。中に入れる温度まで下がったら炭を出し、選別や梱包作業へ。

1年間の流れ(全盛期)

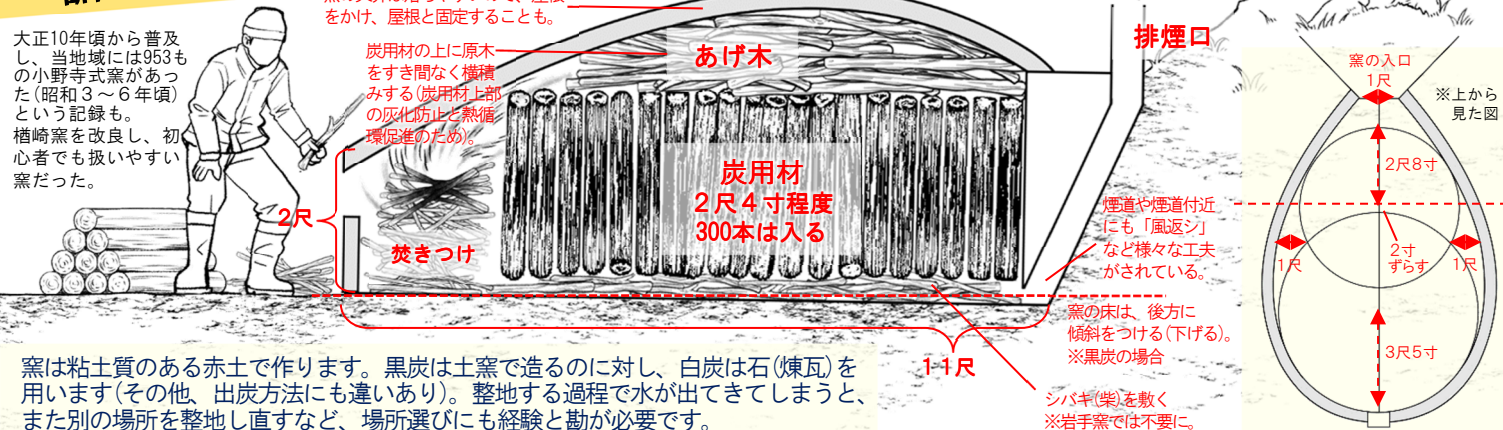
上記の流れを年間スケジュールにしたのが以下の表です。専門の人だと年に50回以上、副業の人は12月~5月頃の農閑期を利用し、年に6回程度、窯を稼働(カマタテ)します。※伐採時期等は時代によっても異なる

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | |
|----|--------|--|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 専門 | 窯の稼働回数 | 1~5 | 6~10 | 11~15 | 16~18 | 19~21 | 22~24 | 25~27 | 28~30 | 31~35 | 36~40 | 41~45 | 46~50 |
| | 関連作業 | 伐採作業(伐採~薪割り~薪運び) ※その人(家)によっても異なる(通年or積雪前まで等) | | | | | | | | | | | |
| 副業 | 窯の稼働回数 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | | | | 窯の準備 1 | |
| | 関連作業 | 「炭すご(カヤで編んだ炭を入れる俵)」づくり/縛ない ※年間を通し、女性たちの作業 | | | | | | | | | | | |

ここからは炭焼きにおける仕事の流儀を「窯づくり(窯打ち)」「立込」「口入・口止」「出炭・梱包」の4つにわけてご紹介! 「立込」以降は次号をお楽しみに!

仕事の流儀1 窯づくり

小野寺式窯断面図



ミッション 74 仕事の流儀 ファイルNo.4 「炭焼き①」

かつては盛んだったはずが、今となっては希少になりつつある「お仕事」やその技術等を調査する「仕事の流儀」シリーズ。岩手県が日本一の黒炭生産地となった大正初期(それ以前から行われている)~昭和40年代までは、当地域でも盛んに行われていた「製炭」。しかし現在は当地域で販売用の製炭を行う人はわずか1名※。その技術や工程、歴史について、整理してみました。※岩手県木炭協会の把握。非会員がいる可能性もある。自家消費等に製炭を行う人は若干名あり。(記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果)

■製鉄や冶金のための木炭
日本列島において人類がいつ頃から木炭を活用していたかは諸説あり定かではありませんが、少なくとも製鉄が行われ始めていたとされる古墳時代には、製炭も行われていたと考えられます。平安時代には年貢としても徴収され、製炭技術も徐々に向上。武器製造のための必需品でもあり、江戸時代には庶民の日常生活におけるエネルギー源としても浸透していききました。

当地域では、金・銀・鉄鉱類が盛んに生産された平泉文化において、冶金(やきん)用に木炭が広く製造されたのだとか。平泉遺跡群発掘調査では、12世紀前半の陶器窯の跡から、陶器を焼く際に炭が熱源として使われていたことが報告されています。

大東町や藤沢町では藩政時代から明治にかけて木炭が欠かせない「たたら製鉄」が行われており、『大東町史上巻』には諸役帳からの数字として、炭焼職人(非生業としての製炭業)が文化元年(1804年)に3人いた(大原村・鳥海村・猿沢村各1人)と記されています。

明治時代に入ると本格的な木炭時代を迎えますが、明治初期は東北地方における工業用炭としての需要が大半で、明治24年に東北本線が盛岡まで全線開通したことを機に、一般燃料としての出荷が増加するも、盛岡以北が主要産地でした。

■農民の困窮を救う存在へ
転機となったのは明治38年の大凶作。明治35年にも大凶作があったばかりで、困窮した凶作民の救済と農山村の副業育成を目指し、県が製炭技術の改良に本腰を入れたのです。

時を同じくして明治40年、「森林法」が改正され、森林保護行政に力を入れられるようになると、県では林業技術員を採用。各地で林業講習会を開催します。

その当時、主要産地になれずにいた地域(当地域含む)の製炭技術は、藩政時代から特に改良も進まない「昔ガマ」などと呼ばれるもので、生産性や木炭の質に問題がありました。そこで、県の林業講習会には「改良製炭法」も盛り込まれ、講師の一人、植崎圭三氏が考案した「植崎ガマ」での製炭法を指導。これにより西磐井郡では製炭量が明治37年の約17倍に(東磐井郡は3倍)!大正4年には岩手県が生産量全国1位となりました。

また、黄海村(当時)出身の小野寺清七が岩手県農林技師(大正10年着任)としてさらなる製炭窯の開発研究を行い、「小野寺式製炭法」を確立。良質かつ安定した木炭生産が可能となり(その後も窯の改良は続く)、「岩手木炭」の評価に大きく貢献しました。なお、この頃には当地域にも木炭共同組合が設置され、岩手県内における大正12年の製炭業者数は、専門が2千6百人弱、副業が1万2千3百人弱でした。(次号へつづく)

現金収入を得るための製炭

明治40年頃から急速に製炭技術の普及が進められた岩手県ですが、当地域を含め、それまでの山林は「自給自足の生活を送るための空間」であり、「収入を得るための場」ではありませんでした。ところが、上述のように製炭技術が普及し、「岩手木炭」として需要が高まると、いわゆる「木炭業者」が各地に出現します。

その中には資産家や事業者などもあり、彼らは山を買っては地元農民に窯を築かせ、炭焼職人を現場監督として雇い、大量の炭を作らせました。山を所有していない農民たちが数名共同で山の立木を購入したり、炭の販売を行う商店が山を買って「焼き子」を雇うというパターンも。大東町摺沢の(有)佐甚商店の会長・佐藤さんによると、同店では昭和元年から平成初頭まで木炭を取り扱っていたそうで、同店が山の売買をしたり、築窯に関与することもあったとか。同様の業者が大東町内だけでも10軒程あり、摺沢駅付近には木炭検査員が常駐していた時期もあったそうです。

一関地区では大正10年に木炭協同組合が組織され、昭和に入ると薪炭倉庫や出荷組合も各地にできるよう。東北本線一関駅には木炭積み込み専用の引き込み線も設けられ、東北本線上の各駅から東京方面へと出荷されました(そのため、薪炭倉庫は駅前に設けられた)。昭和15年頃が日本国内の木炭生産ピークですが、岩手県内ではもうしばらく木炭生産需要が続きます(次号で紹介)。